

第1回 庄内町立図書館協議会 会議録

開催日時 令和6年5月24日（金） 午後6時30分 開会
午後8時15分 閉会

開催場所 庄内町立図書館 多目的室

出席者 出席委員7名
小野寺姫、奥山洋子、高橋和美、志田啓子、佐藤克則、齋藤裕美、小鷹浩信

欠席者 なし

事務局 社会教育課 課長 佐藤直樹
庄内町立図書館 課長補佐兼図書館長 佐藤晃子
庄内町立図書館 主事 長南千夏

議事日程
（辞令交付）

1 開会（図書館長）

以下進行 事務局

2 あいさつ

社会教育課長

3 自己紹介

4 報告事項 座長：委員長

- ・令和6年度庄内町立図書館運営計画について
- ・令和6年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- ・令和6年度庄内町立図書館協議会年間計画について

《資料に基づき説明：事務局》

委員：運営計画について、2月の協議会のなかで色々と意見したが、あまり変わっておらず残念である。例えば、子育て支援センターとの連携ということで、2月の協議会内の説明で、子育て支援センターから図書館に流れて来る方も多くいるということだったが、その点を活かすようなイベントの予定はあるか。また、子ども達への色々な取り組みは大変手厚く考えられている中で、町民の人口の割合として高齢者が多いわけだが、高齢者の生きがいづくりのイベントが少ないように感じるがいかがか。

事務局：2月末の協議会の際には、ご意見を踏まえ、もう少し具体的なメニューを構築していきたい

と申し上げたが、5月のオープンを無事に迎えるための準備に時間を費やさざるを得なかったというのが実際の状況である。ただ、今ようやくオープンし、事業等についても、色々なところから逆にお声掛けをいただいている。我々が基本計画の時に目指した、直営であるということとをメリットにした、他課とのコラボレーションということも、担当レベルではあるが、検討しているところである。次回、皆様にご報告する時には、少しでも具体的な取り組みについてお伝えできるように、引き続き頑張っていきたい。せっかくこれだけの施設が整備されたわけなので、ここからが、新たなスタートだと思い、ご指摘の部分の実現に向けて、これからも努力していきたい。

委員：子ども食堂をやっているが、7月に図書館への訪問を予定している。子ども食堂に参加している家庭に、図書利用カードを持っているか聞くと、8家庭が持っており、他の7家庭は持っていないということだった。人と人を結ぶという図書館が、居場所として色々な人が繋がる場になってほしいなという想いもあり、受入れを快く承諾していただけて有難いと思っている。今後、色々な仕掛けをしていく必要があり、大変だとは思っているので、私たち図書館協議会委員も協力していきたいと思っている。

事務局：大変心強い。

委員：高齢者や中高校生の利用を上げるためにどうしたら良いかを今まで様々考えてきたが、旧図書館では、古くて利用しにくい建物という先入観があったために、中々企画をしても進めなかったというのが現実だった。しかし、今こうしてオープンしてみると、予想していなかった向こうからのオファーが来るようになったこと、かえって自然発生的にできるような環境づくりになったということが、素晴らしいと思う。これからも幅が増えていくのかなと思う。

委員：新聞の閲覧スペースについて、旧図書館では1人でテーブル1つを占有する光景があったが新図書館では、ビックテーブルがひとつあるだけだが、今のところ問題はないか。

事務局：全館オープンとなり、カウンター席や4人掛けテーブル、書架の間のスツール等、あちこちに椅子を設けている。ご高齢の方からは、疲れた時に椅子を探さなくても座れるところが多くあり、有難いという意見もいただいている。そして、ビックテーブルについても、曲線状がよかったのか、新聞閲覧のご高齢の方と、パソコンを開きながら勉強をしている学生という、異年齢の方達が、同じエリアで共存する姿がみられる。同じ場所で、それぞれの居場所を見つけながら共存できるのも、図書館のひとつの存在意義であると感じている。

委員：図書館本館が休館に入った3月頃に、本館から分館に100冊ほどの本を持ってきていただいた。魅力的な本が並んでいるという声が周りからも聞こえてきて、本当に有難かった。

昨年の7月に分館がオープンをし、その際に雑誌を少し増やしていただけるということで大変期待をしていたが、未だ雑誌は増えていない。もう少し雑誌があったら嬉しいと、仲間内で話をしている。また先日、新聞を開架に1週間分出していただけないかとお願いすると、すぐに対応していただけて有難かった。

自主団体の分館応援団は、事務局も落ち着かない中で、新しい分館にどうお手伝いして良いか考えていたが、なかなか活動ができていなかった。しかし、今週やっと集まることができ、今後も月に1回は集まるようにして、分館のためにお手伝いできる部分についてやっていこうと確認し合ったところである。ただ本館と比べると分館の魅力はいまひとつで、施設は綺麗に

なったけれども、新刊コーナー以外はあまり代わり映えしないのが気になる。しかし分館は、私達にとってとても身近で大切な場所であるので、お忙しいとは思いますが、分館の方にもお力をお借りしたい。

事務局：雑誌に関しては、雑誌スポンサー制度の反応があれば、充実できると期待も込めてお答えしたのだが、残念ながらなかなか実績に結びつかず、自分達の力不足を痛感している。以前ご提案いただいたような機会を捉えて、PR していくしかないと思っている。あとは来年度にはなってしまうが、配当予算の獲得も含めて、ご意見を真摯に受け止め、引き続き努めて参りたいと思う。

また、2 月にご意見をいただいていた分館と学童の行き来ができない点だが、主管課に相談をしてみた。新年度になり、4・5 月は特に子ども達も落ち着かない時期だというようなことで、スタッフ含めて、少し気持ちが落ち着き、理解が得られれば、行き来できる環境整備にできるのではないかと回答を得た。私の方でも、学童のスタッフの方と子どもファーストで協議を試みたいと思っている。

委員：大変元気な子どもたちなので、曜日や時間を決めて、その時だけ鍵を開けていただく等して、そこからはじめてみる方が自然かと思う。

事務局：せっかくいただいたご意見なので、これから協議していい方向に持っていきたいと思っている。

委員：5 月 16 日の図書主任会の中で、新館がオープンしたことによる、学校帰りの立ち寄りのルールに関する話は何かあったか。

事務局：図書主任会ではそのような話はでなかった。

委員：図書主任会に出席したが、図書館からは、団体貸出の紹介や町探検等で利用してくださいとの話はあった。ただ学校の方からは特になかった。登下校の管理上の問題もあるので、一旦自宅に帰るところまでが下校で、特に小学生は一度寄っていいと言ったらどこでも寄っていいと勘違いしてしまう子も多い。また、集団下校の学校もあり、難しい。まずは、図書利用カードを持っていない子も多くいるので、各校への呼びかけや利用方法を上手く伝えることから考えている。職員の中でも共有をし、できるだけ使っていきたいと話したところだ。そして、四小は図書館が遠いので、まずは団体貸出から利用したい。また、マルチタスク車両で、ぜひ昼休みに来ていただきたい。

委員：マルチタスク車両や団体貸出で良い本があることを知ってもらい、本の続きを読みたいと思った子どもから、親を引っ張ってきてもらう方がいい。響ホールができた時には、各学校で音楽演劇講座等の機会を設けていた。それとは規模は違うが、各学校で町探検や校外学習の一環として全員で訪れるという機会があれば、そこから保護者に広がっていくと思う。

また、図書利用カードについて、9 ヶ月の育児相談時に、希望者に利用カードの発行と書いてあったので、全員にプレゼントしてみてもと提案したが、やはりこれは希望者のままか。いないという保護者もいるのか。プレゼントとした方がいい気がするが、できない理由が何かあるのか。

事務局：図書利用カードを作るときには、個人情報を確認するために身分証明書の提示が必要である。若い方々は特に、個人情報の捉え方が厳しくなっているので、割と抵抗感を感じられるのかも

しれない。

委 員：今は図書利用カードの作成時、全員の身分証明書の提示が必要なのか。

事 務 局：必要である。以前は本人確認をしていなかったが、現在は身分証明書を提示していただいている。そこもひとつハードルとなっているかもしれない。

委 員：町立だからではなく、どこの図書館もそうなのか。

事 務 局：今は、ほとんどの館で、身分証明書を提示しないと新規には作れない。

委 員：事業計画をみると、毎月のようにイベントがあるが、スタッフは大変ではないのか。もう少し整理する必要があるのではないか。本来の業務もあるわけで、これだと大変だと思う。それに加えて、外部からも連携のオファーがあるという話であった。さらに、高齢者向けのイベントもやるとなると、カレンダーは空いていても、人間は空いていないのではないかと思った。例えば、高齢者向けのイベントを定期的にすると、ボランティアの方や、普段利用している町の人から何かしてもらうような、あまりお金のかからないイベントでもいいのではというの、私の意見である。

事 務 局：職員への配慮までいただき、感謝申し上げたい。毎年イベントの数が増加している。ただ、職員の人数はあまり変わっておらず、責任感や使命感の中で、頑張ってもらっているということも否めない。そして、あまり時間に追われてしまうと、良いパフォーマンスができないという部分もある。イベントにエネルギーを費やす分だけ、私達が一番基本としなければいけない、一人ひとりのお客様への対応や、きちんとした資料の収集・管理、レファレンスサービス等、最も大切にしなければいけないところがどうしても手薄になってしまうということもあるが、そこはぶれないようにしたい。

それでも、これだけの施設整備を、町民の皆さんのご理解のもと、実現することができたので、今度はサービス面で成果を上げていかなくてはいけないという使命もある。おっしゃる通りで、良いパフォーマンスのためにも、イベントについては整理する必要があるとも考えた。

委 員：雑誌スポンサー制度について、企業側も、確かにお金掛けて置くべきかというところもあるが、そもそも企業が立川には少ない。個人で寄贈することはできないのか。何か方策がないか。

事 務 局：個人の負担の事なども考えると難しいかもしれないが、お申し出があれば検討したい。

委 員：例えば、婦人雑誌などであれば、去年の雑誌でも、タイムリーでなくてもよいのではないかな。そういったものを寄贈していただいて並べるのはどうか。

委 員：雑誌というと、タイムリーな点に魅力を感じる。例えば、私たち図書館協議会委員を使って、雑誌スポンサー制度のチラシを、知っている企業に配ってもらうのもひとつではないか。

委 員：もっと人を使った方がいい。新しい図書館になったので、図書館ボランティアみたいなものもこれから募集はしないのか。しかし、色々な意見を言って、図書館スタッフの首を絞めるようなことは望んでいない。やはり図書館スタッフがにこやかに出迎えてくれると私達もホッとします。ただ、ボランティアの方たちに一から説明するより、自分達がやったほうが案外早いというところもあると思うので、検討していただきたい。

5 協議事項

- (1) 庄内町立図書館事業評価 令和5年度分について
- (2) 庄内町内藤秀因水彩画記念館事業評価 令和5年度分について
- (3) その他

《資料に基づき説明：事務局》

委員：先程の事業評価の中で、図書館の移転作業の時に、庄内総合高校のボランティアの方に色々な手伝いをしていただいたということであったが、今も関わりはあるか。また、ボランティアをしてみてもの感触はいかがか。

事務局：ボランティアもひとつの機会となった。

さらに昨年度から、子ども読書活動推進委員会に庄内総合高校の学校司書の方も入っている関係で、庄内総合高校との連携の道筋が見えてきている。まだ計画段階だが、庄内総合高校図書委員会の生徒の皆さんがこちらに視察に来てくれることになっており、それを皮切りに、今年度内にコラボレーションができないかと模索しているところである。中高生は、最も読書離れが加速する時期でもあり、ハードルは高いが、十代の子どもたちが多くいる図書館というのは非常に活気があり理想的であると考えます。

また今年度から、余目中学校学校運営協議会に参加しているが、その中でも、授業での来館の機会も設けていきたい等の話も出ている。そういったことがきっかけで、今度は個人的にボランティアに手をあげる生徒さん達が増えていけばと思っている。図書館の移転作業の際には、想定していた以上にたくさんの子供たちから協力いただいた。この流れを止めずになんとか進めていければと思っている。

委員：私の子どもも中学生で、図書館の移転作業ボランティアに参加させていただいた。その時に、庄内総合高校等の高校生ボランティアの子と一緒にできたことがとても良い経験となっている。もしここでまた何か簡単な作業でもボランティアを募集していただければ、有難いと思う。新しい図書館を立ち上げることに携われたのは、本人にとってはすごく大きな経験だったようで、今でも時々話すことがあるので、また検討いただければと思っている。

事務局：ボランティアの生徒達がいるだけで、こちらもエネルギーをもらっていた。ぜひ前向きに考えたいと思う。

6 その他

- ・おはなしらんどポップコーンの「令和6年度子どもの読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」の受賞について
- ・令和6年度 山形県図書館研究大会の参加について

7 次回開催日程について

令和7年2月21日(金) 18:30～ 庄内町立図書館 多目的室(予定)

8 閉 会